

学校長



## 横浜 f カレッジ

### 令和 4 年度学校関係者評価委員会報告書

#### 1. 学校関係者評価委員会実施要領

日 時	令和 5 年 7 月 24 日 (月) 10:00~11:30		
場 所	Zoom を利用したオンライン開催		
出席者	学校関係者評価委員	市川 雄司	株式会社 TFL 代表取締役
		高田 明宏	株式会社高島屋 執行役員 横浜店 店長
		那須野 教恵	神奈川県教育委員会教育局 総務室 (前 県立高等学校 校長) (欠席)
		夏目 哲宏	株式会社ブライト 代表取締役
		望月 大作	株式会社ウィゴー 取締役 WEGO 事業本部 本部長 (卒業生)
		吉原 直樹	株式会社 アルテ サロン ホールディングス 代表取締役会長
	教職員	岩崎 有紀子	横浜 f カレッジ 学校長
		小松 加代子	横浜 f カレッジ 教務部 部長
		江波戸 秀樹	横浜 f カレッジ 教務部 次長
		角館 裕美	横浜 f カレッジ 教務部 次長
		西木 祐子	横浜 f カレッジ 教務部 参与
		市川 祐三	横浜 f カレッジ 教務部 参与
		別所 慶子	横浜 f カレッジ 教務部 教務課 課長補佐
		佐々木 睦美	横浜 f カレッジ 教務部 教務課 課長補佐 (議事録)
		糸内 美穂	横浜 f カレッジ 教務部 教務課 主任
		安池 かおり	横浜 f カレッジ 教務部 教務課 主任
		三船 澄人	横浜 f カレッジ 教務部 教務課 主任
		末次 友香	横浜 f カレッジ 教務部 教務課 副主任
		山崎 加枝	横浜 f カレッジ 教務部 広報学生課 主任
		資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 4 年度自己点検評価表</li> <li>・令和 4 年度自己点検評価報告書</li> </ul>

## 2. 自己点検評価報告および各項目に対する学校関係者評価

### 2-1. 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は明確か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園の理念である「人材育成を通じた地域社会への貢献」のもと、①感性の向上 ②高度な技術力の習得 ③豊かな人間性の涵養 ④プレゼンテーション能力の育成 の4つを教育目標に掲げ、ファッション、美容、ブライダル分野の人材育成に取り組んでいる。</li> <li>・岩崎学園100周年を見据えて策定された中期事業計画に基づき、学園本部および姉妹校を横断するプロジェクト（広報統括委員・IR推進委員・DX推進委員・国家試験対策・キャリア開発推進・教育環境整備等）が活動している。本校からは、若手、中堅教職員がプロジェクトメンバーとして積極的に参加し、新しい教育の立案推進に携わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の若者の職業意識に大きな変化が生じている現在、技術向上のために日々の努力が肝要という価値観は薄れつつある。専門学校として、若い人達への教育の在り方、職業意識の付け方が今後の課題となる。</li> <li>・コロナを経て業界も変化しつつある。変化を前向きに捉え、幅広い視野で業界に関心を持ち、新しいサービスの発案など、柔軟な発想ができる人材が求められている。様々な視点で興味関心を持ち、発想力豊かな人材育成を期待する。</li> <li>・サービスを提供する側として、物に興味を持つことは非常に大切であり、作り手の想いに至るまで興味関心を持つ事が重要であるが、近年そういう思考が薄れつつある。提供する物そのものだけでなく、背景に至るまで勉強して欲しい。</li> </ul>

### 2-2. 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・事業計画に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する制度は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務効率化が図られているか</li> </ul>	<p>&lt;運営方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園理事会での学校運営に関する根幹の決定に基づき、3つの重点実施項目を策定し教育活動を行った。</li> <li>・令和4年度は、昨年度設置した「マネジメント運営グループ」に加え、効率的な学科運営を行う事を目的とし、学科別の業務グループを新設。教務部全体として組織的に業務が行える体制を整備した。また、事業計画は、個人の業務計画・目標に落とし込みを行い、期首・中間・期末での振り返りを実施。成果の見える化を基準にグループリーダーと面談を実施し、教職員の育成にも傾注した。</li> </ul>	<p>&lt;運営方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション、美容、ブライダルの各分野に求められる人材の資質、スキルは一律ではなく、目まぐるしい社会変化の中、業界ニーズの変容をとらえた教育の実践や、学校として常に組織としてのモチベーションを維持しながら、人的な質を高めて行こうという姿勢は評価できる。</li> </ul>

	<p>&lt;視聴覚教材システムの導入と業務の効率化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビューティースタylist科でSwipe Video（自由視点映像ソリューション）を先行導入し、美容師国家試験の実技対策を実施。（実技分野の合格率：98.3%と好結果）いつでもどこでも各自の見たい視点で技術の確認ができるため、教員による実技フォローの時間削減・業務の効率化に繋がった。次年度は全学科での導入に着手する。</li> </ul> <p>&lt;働き方、健康管理&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止、学生および教職員の安全と健康を守るための、オンライン授業の活用と、教職員の在宅ワークを行った。募集活動に係る休日出勤についても、振替休暇の取得が比較的しやすいように半日勤務を推奨した。</li> </ul>	<p>&lt;視聴覚教材システムの導入と業務の効率化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DX 領域の中での人材育成は止まることなく進めて行く必要がある。その中でSwipe Videoの導入により、リモートでも動画を見ながら学習できる環境を提供し、成果を出していることは先進的な取り組みとして評価できる。</li> </ul> <p>&lt;働き方、健康管理&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
--	--	---

### 2-3. 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるイ</li> </ul>	<p>&lt;教育課程の編成・実施方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念・目標を具現化するためアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをベースに、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」を作成。学科にかかわる常勤・非常勤を含めた教員で共有し、教育内容の明確化と科目横断的な教育効果の向上を図っている。</li> <li>・年2回の本校教育分野関連の業界団体・企業等の有識者による「教育課程編成委員会」や、産学連携の取り組みを通して、両グランドデザイン、シラバスの見直しを行い、産業動向や企業ニーズに合わせた教育を推進している。</li> </ul>	<p>&lt;教育課程の編成・実施方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Z世代を中心に、ジェンダーレス思考が広がっており、サービスを提供する側にも従来の常識に捉われない柔軟な考え方が必要とされている。</li> <li>・日本の技術教育は海外からも期待感を持たれている。将来的に国外の大学や、企業との連携ができる可能性は高いのではないかと。</li> <li>・言われたことだけやるのではなく、自ら課題を見つけ解決できるという、起業マインドを持った人材が、今後社会の中で必要になると思われる。起業することを目的とせずとも、起業マインドを持った人材育成にフォーカスしてもいいのではないかと。</li> <li>・ブライダル業界では、相手の表情から感情を察し、より</li> </ul>

<p>ンターンシップ、実技・実習等) が体系的に位置づけられているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>	<p>&lt;オンライン授業の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LMSであるスタログや基礎学力の向上を図るe-learning教材(すらら)、学生と教職員のコミュニケーションツール(スラック)を活用したオンライン授業を継続して実施。LMSでは、マイクロラーニングや授業動画を活用した検定試験対策が定着。試験の合格率向上に寄与した。</li> </ul> <p>&lt;令和5年度に向けた、学科横断的な共通カリキュラムの検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の導入をめざし、①学生に分かりやすく②時代の変化の中でも通用する③学生と教務双方にとって効率的で運用しやすい等を目的にカリキュラムの再編に着手。令和4年度より、全学科の学生を対象にしたオンデマンド型の資格取得講座を3講座「サービス接遇検定2級講座」「アロマセラピー検定2級講座」「ネットショップ実務士補検定講座」を実施した。次年度は受講者ならびに資格試験受験者数の増加を計画している。</li> </ul>	<p>良い接客を行うスキルが必要であるが、コロナ禍でマスク生活が長引いた影響からか、表情から相手の感情を読み取ることに難しさを感じる人が多くなった。以前であれば自然に身につけていたスキルではあるが、教育カリキュラムに入れることを検討しても良いのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美容の接客の現場において、マスク着用については衛生管理との兼ね合いが難しい部分であるが、学校教育の中でどう対応していくかについても課題ではないか。</li> </ul> <p>&lt;オンライン授業の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で動画教育が徹底され、若い世代には慣れも出てきている。オンライン教育の習熟度には、受講する学生のレベルによる差も大きいと考えるが、対面授業と上手く組み合わせ活用していくことが大切。</li> <li>・オンラインとフィジカルを併用した社会人講座では、半分がオンラインで受講している現状がある。双方の良さを鑑み、オンラインかフィジカルか選択できるような柔軟性のある教育提供も良いのでは。</li> </ul> <p>&lt;令和5年度に向けた、学科横断的な共通カリキュラムの検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
---	--	--

	<p>&lt;産学連携・インターンシップの体系化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染防止策の緩和もあり、対面での活動も再開した。継続的に実施できた産学連携やインターンシップも多数あり、学生には実践的な学びの場となった。</li> </ul> <p>■以下連携事例について詳細を報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業提示の課題による産学連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－横浜高島屋との連携によるファッション売り場のディスプレイ、革小物の商品化に取り組んだ。</li> <li>－企業との連携による3Dデザインを活用した企画、商品化への取り組み</li> <li>－企業との協業による結婚式プロデュース</li> </ul> </li> <li>・現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>－横浜実践看護専門学校と連携し乳がん患者へのヘアドネーションへ協力</li> </ul> </li> <li>・企業によるイベント協力等での地域振興への協力 <ul style="list-style-type: none"> <li>－地元スポーツチームの試合時の応援イベント支援</li> </ul> </li> </ul>	<p>&lt;産学連携・インターンシップの体系化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3Dモデリングに関しては、生地の物性データを取得することにより、量産工場でのパターン修正に至るまで、教育できる幅が広がりつつある。また現在、生成系AIでデザインができないかという取り組みを、様々なアパレルと検証している。大手アパレルでは活用を検討するところまで来ており、今後、連携授業の中でも展開して行くことで現状を伝えていく事も必要。</li> </ul>
--	---	--

#### 2-4. 環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> </ul>	<p>&lt;施設・設備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に引き続き、すべての学科で学生にノートPCを貸与。自宅でオンライン授業が受講できる体制を整えている。また、学内に個室型ワークブースを3台設置し、就職活動におけるオンライン面接等に活用した。他に、アパレル業界のDXに対応し、3Dモデリング技術が学べる環境を整備した。</li> </ul>	<p>&lt;施設・設備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>

2-5. 学習成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>	<p>&lt;内部期待生制度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園のすべての専門学校に在籍する進級学生を対象に「内部期待生制度」が導入され、令和4年度は11名の内部期待生を選出した。</li> <li>・内部期待生は、本学園姉妹校の学生が横断的に参加するアイデアソンなどのプログラムに参加し知見を広めるとともに、学校情報の発信に寄与。また、校内で行われた学校行事にも率先して参加し、他の学生の模範となっている。</li> </ul> <p>■就職実績・資格取得・コンテストについて詳細を報告</p> <p>&lt;就職実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に対する支援は、岩崎学園全体の就職情報を統括的に管理する部門と教員が連携し、学生の活動をサポートしている。令和4年度も、前年度に引き続きコロナ禍による影響がある中、粘り強く就職活動を実施した。</li> </ul> <p>【令和4年度就職実績】</p> <p>ー就職率：98%（就職希望者 363名、就職者 335名）</p> <p>&lt;資格取得・コンテスト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の目標としてカリキュラムの中に計画的に資格取得を配置し、専門知識、技術の確実な習得をめざすとともに、合格により達成感を体感し、次のステップへの意欲醸成につなげている。</li> <li>①美容師国家試験合格率 89.4%。</li> <li>②ブライダル科では、国家検定であるブライダルコーディネーター技能検定3級の合格率が97.1%。また2級合</li> </ul>	<p>&lt;内部期待生制度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>&lt;就職実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、アパレルの販売職に対する評価がより顕著に下がったと感じている。将来性や収入面を鑑み、転職をするケースが増加しており、業界として課題と捉え改善を試みている。</li> <li>・多くの業界が集客のために SNS を使用している。求人についても同様で、インディビジュアルな形になりつつある中、いかに魅力を持って組織化していくかが課題。</li> <li>・コロナ禍に SNS 発信専用の部署を発足し、そこから得られる有益な情報を、消費プロダクトの開発に生かしている。主体的に集客に繋がる企画を発信できるようなスキルを持った人材を積極的に採用し、履歴書へも SNS のアカウント記載を必須とし、採用時の参考としている。</li> </ul> <p>&lt;資格取得・コンテスト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>

	<p>格者を2名輩出した。</p> <p>③ファッションライフデザイン学科では、ファッション3Dモデリスト検定3級を受験し合格率が71.4%</p> <p>&lt;退学者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退学率12.7% (前年10.8%)</li> </ul>	<p>&lt;退学者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退学率の増加は、コロナ禍の影響が顕著であると推察される。教育活動や日常生活において、圧倒的に対面でのコミュニケーションが少なく、相手の表情や声から意思の疎通を図る機会や体験がなされておらず、それを当たり前として過ごしてきた高校生が進学先で躓く事は容易に予測された事である。受け入れたからには、丁寧に面倒を見て、取り残される学生を一人でも救って欲しい。</li> </ul>
--	---	---

## 2-6. 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>	<p>&lt;学生相談&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況ごとにクラス担任、学科リーダー、専門のカウンセラーと複数の人間に対応をしている。</li> </ul> <p>&lt;経済的な支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度より始まった「高等教育就学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。</li> <li>・給付型、貸与型と様々な支援策があり、また、利用者も年々増加傾向であるが、それでも経済的な苦勞を抱える学生は少なくない。</li> </ul> <p>&lt;保護者との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期、後期の成績については、学校生活や就職活動についての「保護者へのお便り」とともに書面にて通知している。また、入学ガイダンスやビューティースタylist科、ビューティーコーディネート科の保護者会、学校行事の様子など、オンラインにて配信を実施した。</li> </ul>	<p>&lt;学生相談&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>&lt;経済的な支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>&lt;保護者との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>

	<防災体制> ・激甚災害行動マニュアルを策定し運用。 ・スラックを活用し、台風・降雪等の荒天時の教務部判断を設けて対応。	<防災体制> ・特になし
--	--	-----------------

## 2-7. 学生の受け入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>	<p>■学生募集活動について以下詳細の報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度入学生は454名（前年436名）ファッションライフデザイン学科では、平成29年度から緩やかに増加し、令和5年度生は初めて40名を超える入学者数となった。</li> <li>・高校生のヘアメイク志向への高まりを受け、令和6年度にヘアメイク・アイデザイン科（美容師国家資格取得学科）の新設を検討。準備を始めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年に美容師国家資格を取得できる学科が増えるという事で大変期待している。</li> </ul>

## 2-8. 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>

## 2-9. 法令順守

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の設置や運営に関する法令は遵守しており、神奈川県への認可を受けている。毎年、学則、カリキュラムの届出と学生数、教職員状況、卒業生状況等の報告を行っている。</li> <li>・個人情報保護については、本学園ホームページで公開している個人情報保護方針に則り行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>



	<p>・平成 25 年 3 月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、自己評価を実施。ホームページ上で公開するとともに、学校関係者評価委員会を開催し、専門的かつ客観的な意見を聴収した。また、議事録をホームページ上で公開した。</p>	
--	---	--

## 2-10. 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>	<p>&lt;学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園の姉妹校とも連携しながら、地元プロスポーツチームや地域イベントの活動に参加し、日ごろの学習成果を披露しながら地域社会に貢献。令和 4 年に新たに学生主体で立ち上げたサークル活動などを通じて、社会貢献や地域貢献の活動の企画から実行までを継続的に行うことが課題。</li> </ul> <p>&lt;地域に対する公開講座・教育訓練の実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年より再開した、高校生向けキャリア講座（仕事の学び場（4 講座 95 名）総専協夏期講座（2 講座 33 名）県立高校のプライダル科インターンシップ（18 名）受入れについて、コロナ感染対策を施し今年度も全て開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>

以 上

教務部長	作成者
 <p>小 '23/08/23 松</p>	 <p>佐々木 '23/08/23 (睦)</p>